



小学校高学年向け 年 組

273

2025年7月27日付・下野新聞1面

下水処理普及 89.9%

前年比
0.6%増
全国平均届かず

県内24年3月

県内で公共下水道など何らかの生活排水処理施設を利用できる割合（県内人口普及率）は、2024年3月末時点で89・9%となり、過去最高を更新したことが国や県への取材で分かった。23年3月末と比べ0・6%増えたが、全国平均の93・3%には達していない。各家庭に設置されている単独処理浄化槽（単独槽）から、普及率に算定される合併処理浄化槽（合併槽）への転換が伸び悩んでいることが主な理由で、県は転換を後押しする補助の在り方を検討する。

（杵木 澤良太）

は整備費の個人負担が大き
いことだ。合併槽本体の購
入費や設置に伴う工事費な
どを市町が一部補助してい
るが、自己負担は数十万円
から100万円を超える場
合もある。県は「効果的な
支援制度を検討する」とし
ている。

24年の普及率の内訳は公
共下水道（69・7%）、農
業振興地域内の下水を処理
する農業集落排水（3・9
%）、トイレや台所、風呂
など家庭の全ての排水をた
める合併槽（16・3%）、
集合住宅などにある小規模
下水処理場「コミュニティ
・プラント」（0・04%）。
どの施設も普及していな
い場合は、トイレの排水の
みを単独槽かくみ取り式で
処理し、台所や風呂などの
排水は川に流すなどしてい
るケースが多い。

普及率を市町別でみる

生活排水処理施設
の県内人口普及
率（%）

県全体	89.9
宇都宮市	99.4
足利市	90.9
栃木市	82.8
那須野市	82.6
日光市	91.2
日光市	85.4
小山市	91.4
真岡市	86.6
大田原市	84.7
矢板市	76.6
那須塩原市	80.6
さくら市	85.0
那須烏山市	67.1
下野市	98.8
上三川町	99.1
益子町	76.3
茂木町	67.0
市貝町	92.3
芳賀町	97.3
壬生町	92.1
野木町	94.4
塩谷町	47.5
高根沢町	87.9
那須町	81.6
那珂川町	80.9

※2024年3月末現在

と、宇都宮市が最も高く99
・4%で、9割台は下野や
上三川、芳賀、壬生など10
市町。人口が密集し公共下
水道が整備されたり、合併
槽へのいち早い転換が進ん
だりした自治体が並んだ。
8割台は栃木や佐野など10
市町。7割台は矢板、益子、
6割台は那須烏山、茂木だ
った。県内で最も低い塩谷

転換への足かせとなるの

島県の68・5%だった。
国の発表によると、24年
3月末の全国の普及率は93
・3%。最高は東京都の99
・9%で、最も低いのは徳

良質な水環境を保全するこ
とにつながる。県は、市町
の公共下水道運営を支援
し、県内に約4万9千基残
存している単独槽から合併
槽への転換にも力を入れ
る。

設 問

- 【1】見出しを三つ書き抜きましょう。
- 【2】89.9%とは何の割合でしょうか。リード（1段落目）から読み取りましょう。
- 【3】下水処理に使用できる施設を四つ、本文から読み取りましょう。

【4】下水処理普及率を高めると、どんな利点がありますか。本文から読み取りましょう。

【5】これからの普及率上昇のためにどんなことが必要でしょうか。本文から読み取りましょう。

【6】単独槽、合併槽の言葉の意味や、使った水を浄化する仕組みについて、環境省のホームページで調べてみましょう。